

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

高松城址公園を中心とした歴史・観光拠点整備事業

2 地域再生計画の作成主体の名称

岡山市

3 地域再生計画の区域

岡山市の全域

4 地域再生計画の目標

4-1 地方創生の実現における構造的な課題

高松城址公園資料館の来館者数は、豊臣秀吉の備中高松城水攻めという歴史的転換点という歴史文化資源の魅力を持ちながら、令和 2(2020)年のデータで 10,000 人と伸び悩んでいる。NHK大河ドラマ「軍師官兵衛」が放映された 2014 年は 62,000 人の来館者となったが、一過性であった。また、同市内の後樂園・岡山城エリアが年間 907 千人の観光客数となっていることを考えると、あまりに少ない人数である。その構造的な課題は以下の 3 点にある。

①水攻めをイメージしにくいこと

水攻めにあった城として、有名であるが、現状、平面に置かれた関係史料を眺めるだけになっており、子どもや歴史に詳しくない人からすると、当時の情景をイメージできるものでもなく、理解しがたいコンテンツとなっているのが現状である（令和 3(2021)年度来館者への聞き取りより）

②団体客を呼び込める空間ができていないこと

上記①のとおり、史料が当時の情景をイメージしにくいことに加え、説明スペースは椅子を 2, 3 脚置くスペースしかなく、ボランティアによる説明や映像による説明を団体客（40 名以上）が聞けるスペースとなっていない。ゆえに来館者は個人が多く、近隣の少学校等でさえ、学年・クラス単位の校外学習で訪れていない状況である。（令和 3(2021)年度：校外学習利用数 4 校）

③周辺観光と連携が出来ていないこと

②のような空間の狭さもあり、現状、建物内で周辺観光地や近隣飲食店等の情報を提供することができていない。岡山市「観光行動モデル調査」によると、「身近な地域に今まで気づいていない価値、初めての場所を見つける旅行」の関心度が64.7%と上位にある。これはメインコンテンツに周辺のこれまで気づかなかった魅力（飲食店といったお店やサイクリングといった新たな移動手段）を加えることで観光客が伸びる可能性があるにも関わらず、施設としての魅せ方や他施設との情報連携等ができていなかったということである。

上記①～③の複合的な要因により、高松城址公園資料館は来館者数が伸び悩んでおり、これらの課題を解決することで、観光客の増加はもちろん、周辺経済への波及効果、史料の魅せ方地元小学生等への郷土愛醸成を目的とした校外学習の展開等観光分野にとどまらない波及効果をもたらすことができる。

4-2 地方創生として目指す将来像

【概要】

<現状>

【地理的条件】

- ・本市は、近畿と九州を結ぶ東西軸と、山陰と四国を結ぶ結節点に位置し、JR岡山駅に全ての新幹線が停車するほか、道路、空港などの交通網が集中する中核中核都市となっている。

【歴史・文化資源】

- ・豊富な歴史・文化資源に恵まれており、国指定史跡数は18であり、政令指定都市の中では、京都市に次いで2番目となっている。

- ・市の中心部には岡山城（現在大規模改修中。令和4(2022)年リニューアルオープン予定）や岡山後樂園、周辺地域には造山古墳（全国第4位の規模の前方後円墳）を始め、吉備津神社や吉備津彦神社等の全国有数の歴史・文化資源があり、これらの周辺地域の歴史・文化資源をストーリーとした「桃太郎伝説の生まれたまち おかやま」は日本遺産に認定されている。

- ・さらに、日本遺産の近隣には、豊臣秀吉の水攻めで知られる「高松城址本丸跡」「清水宗治の首塚」「水攻築堤跡」等の歴史資源も豊富に存在する。

・周辺観光の観光客数は 888 千人（令和 2(2020)年）となっており、後樂園・岡山城周辺の観光客数 907 千人と同等の観光客数となっており、周辺観光は岡山市の観光にとって重要な位置づけとなっている。

【観光客の動向】

・岡山市の観光入込客数は、平成 28（2016）年の 8,297 千人をピークに横ばいとなっている。

・さらに、令和 2(2020)年 1 月より世界中で広がった新型コロナウイルス感染症の影響で観光客数は激減し、特に、新型コロナウイルス感染症流行前に増加傾向にあったインバウンドに関しては、令和 2（2020）年 8 月では、流行前の平成 30（2018）年同月比と比較して約 99%の減少となっている。

観光消費額についても、令和 2（2020）年は、岡山県全体で 1,183 億円となっており、前年に比べて 39.6%減少している。

【認知度・魅力度の現状】

・「地域ブランド調査 2021」では、政令指定都市の中で魅力度 16 位、観光意欲度 14 位となっており、情報接触度においては、政令市で 20 位となっている。

<目指す将来像>

・「第 2 期岡山市まち・ひと・しごと創生総合戦略」において、「歴史・文化資源を活かした観光誘客の促進」を「基本的方向」に位置づけており、この「基本的方向」に基づいて、地域に点在する歴史・文化資源を掘り起こし、磨き上げ、ストーリー性をもった発信を行うことで観光地としての魅力を高め、国内外からの観光客を呼び込み、「第 2 期岡山市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の目標である、観光客数の増加（観光客数（R7） 9,487 千人）、観光消費額の増加を目指す。

・新型コロナウイルス感染症収束後の観光客需要回復期には、新しい魅力づくりと、効果的な情報発信等により、新規観光客やリピーター獲得により、観光客の増加を目指す。

・特に歴史の転換期となった「高松城の水攻め」で有名な、高松城址公園周辺には、「高松城址本丸跡」、「清水宗治の首塚」、「水攻築堤跡」等の遺跡も残っており、周遊観光における重要な観光資源であり、この資源を活用した観

光商品の開発とPRを行い、さらに、高松城址公園に訪れた観光客を、その他の周辺観光や岡山城等への観光に繋げることで、岡山市全体の観光客の増加、特に滞在型観光客の増加を目指す。

・これらを戦略的に行うことで、新型コロナウイルス感染症の影響で大きく落ち込んだ観光業等（交通機関・宿泊施設・飲食業・観光施設・土産店等）を早急に回復させ、地域の雇用や、経済の回復、そして、更なる地域経済の活性化を目指す。

・岡山市の豊富な歴史・文化資源の魅力を高め、これらを地域の内外に情報発信していくことで、地域外の人を呼び込むだけでなく、市民等の地元への愛着・誇りを醸成させ、地元定着にもつなげる。

・新型コロナウイルス感染症収束後を見据えて、歴史・文化資源の磨き上げを行い、外国人観光客を含む、岡山市への観光客の回復を図る。

【数値目標】

K P I	事業開始前 (現時点)	2022 年度増加分 1 年目	2023 年度増加分 2 年目
観光客数（岡山市吉備路）(人)	960,000	0	10,000
高松城址公園資料館来館者数(人)	10,000	0	1,000

2024 年度増加分 3 年目	2025 年度増加分 4 年目	2026 年度増加分 5 年目	K P I 増加分 の累計
10,000	15,000	15,000	50,000
1,500	2,000	2,500	7,000

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2 の③及び5-3 のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ 地方創生拠点整備交付金（内閣府）：【A3007（拠点整備）】

① 事業主体

2に同じ。

② 事業の名称

高松城址公園を中心とした歴史・観光拠点整備事業

③ 事業の内容

（デジタル社会の形成に寄与することが期待される施設整備又は設備整備が含まれる場合には、その必要性について事業目的との関連性が分かるように具体的に記載）

【構造的な課題①を解決するための事業】

○高松城址公園北側に、1階平屋建ての資料館を新築し、広々と開放的な空間を創造し、同資料館の所有する貴重な歴史的資料や、高松城址の歴史や水攻めの様子等を説明するパネルを見やすく効果的に展示する。

○施設の壁面をガラス張りにすることにより、春の桜、初夏の蓮の花、秋の紅葉といった高松城址公園の魅力である四季折々の花木を施設内から楽しむことが出来る。

○ガラス張りの施設内から本丸を望むことが出来るため、高松城本丸の当時の姿を映し出す VR 映像について天候にとらわれず快適に体験が可能となる。

【構造的な課題②③を解決するための事業】

○資料館に、広々とした視聴スペースを設け、解説動画や VR 映像を視聴できるようにする。これにより、学校の校外学習に対応することができ、地元への愛着・誇りの醸成を図る。

また、団体観光客にも対応でき、選ばれる観光地となるとともに、周辺の日本遺産構成文化財や観光施設についても併せて情報発信することで、

広域周遊観光の促進を図る。

＜交付対象事業とは別に実施する事業＞

【構造的な課題①③を解決するための事業】

○高松城の当時の姿や水攻めの様子を最新の VR 技術を活用し、広く配信することで、認知度、観光意欲度の向上を図り、新規観光客の増加を図る。

さらに、現地でしかみることが出来ない VR 映像も作成し、観光客がスマートフォン等で現地に設置している QR コードを読み取り、現地でノベルティグッズとして配布予定のスコープにかざして見ると、当時の武将の視点で当時の水攻めを体感できるようにする。これが、現地を訪れる付加価値となり、新規観光客、リピーターの増加に繋がる。

○また、岡山市全体の文化・歴史資源を観光コンテンツとして磨き上げ、ストーリー化させ、地域の食や特産品を新たに開発する事業を実施することで、魅力的な商品を作り、観光客の増加を図る。

④ 事業が先導的であると認められる理由

【自立性】

高松城址公園資料館において、同資料館の運営を行う地元ボランティア団体「高松城址公園資料館運営委員会」のメンバーによって行っている観光ガイド事業（令和 2 年度においては 16,000 円）や、同団体が作成している「登城記念カード」等の販売による収入（令和 2(2020)年度においては 85,000 円）が、資料館の新築に伴う観光客数増加に伴い増加することで、その収入を施設の維持管理や運営に充てることで同資料館運営の自立化・充実を図る。

【官民協働】

○企業版ふるさと納税により、資料館建設費用の一部に民間資金を活用する。

○岡山市は、高松城址公園資料館を観光拠点として活用できるよう、広い視聴スペース、明るい内装、高松城址公園や高松城本丸跡を一望できるガラス張りの壁面等の工夫を凝らした施設を作り、施設内に設置するモニター等を通じて高松城址や周辺の観光情報を継続的に発信する。地元ボランティア団体「高松城址公園資料館運営委員会」は、収益事業を

実施しながら、同資料館の運営を行うことで、観光客の増加、運営費の確保を官民協働で実施する。

○地元のボランティアガイド「高松城址保興会」は、市が作成する「高松城址水攻め」の観光パンフレットについて資料提供や知見提供を行い、さらに、このパンフレット等を活用して、「高松城水攻め」に関する遺跡（清水宗治胴塚・清水宗治 自刃の地等多数の遺跡有）を、歴史的背景も交えながら、観光客を案内する。この連携により、観光客の満足度向上に寄与することができる。

○観光コンベンション協会は、岡山市公式観光サイトの中で、「高松城水攻め」の特設ページを作ることや、動画配信サイト「ユーチューブ」で、高松城址公園上空をドローンで撮影した映像を配信することで、高松城址公園の魅力を PR し、高松城址公園への集客を図る。

【地域間連携】

観光部局が令和 3(2021)年度に行った観光行動モデル調査では、旅行先を決める情報源として「インターネットでの検索」が第 1 位で、全体の 30%となっていることから、インターネットを中心とした以下の情報発信を行うことで、地域間連携を促進する。

○瀬戸内市と共同し、歴史遺産を巡る周遊企画（スタンプラリー等）を実施する予定としており、この企画を、特設 WEB ページ等で発信することで、高松城址公園を含めた広域的な周遊観光の促進につなげる。

○岡山市中心部から総社市に至る吉備路サイクリングロードは、日本遺産「桃太郎伝説の生まれたまち おかやま」の構成文化財や高松城址公園の近隣に位置しており、岡山市、総社市でのレンタサイクルの「乗り捨て」（借りた場所と返す場所が異なる）が可能となっていることや、岡山市、総社市、双方のホームページでの PR 等を行うことで、日本遺産来訪者が高松城址公園を訪問したり、高松城址公園来訪者が日本遺産を訪問するという相乗効果につなげる。

○埼玉県行田市の「忍城」と高松城は、豊臣秀吉の天下統一に関わる重要な戦いの舞台となった場所であることや、秀吉軍に「水攻め」されたという共通点がある。また、「忍城」は映画「のぼうの城」（平成 24(2012)

年) (野村萬斎主演) のモデルとなり、高松城は、大河ドラマ「秀吉」(平成 12(1996)年) や「軍師官兵衛」(平成 26(2014)年) の舞台となり、ともに、重要な観光資源として活用されている。行田市と岡山市が連携し、それぞれの資料館等に、パンフレット等を設置し、双方の観光地の P R を行うことで、双方の観光客増加という相乗効果につなげる。

【政策間連携】

【観光政策との連携】

○観光部局は、高松城の水攻めを中心としたストーリーや、「体験」「食」等の観光コンテンツ、解説動画や VR の作成、情報発信等のプロモーション活動を行い、都市整備部局が、拠点となる高松城址公園資料館の新設と、資料館での情報発信を行う。このハード、ソフト両面での取組を連携して行うことで、効果的に観光地の魅力を向上させ、観光客の増加を図ることができる。

【地域のデジタル政策との連携】

○最新の VR 技術を活用し、旅前(旅行先を選ぶ段階)では、パソコン等で、当時の高松城の様子を見ることが出来、現地では、戦国武将の視点で戦国時代の「高松城水攻めの攻防」を体験することができる。これにより、観光客の増加や満足度の向上を図ることが出来る。

【経済政策との連携】

○交通機関・宿泊業・飲食業・観光施設・土産物展等、すそ野が広い観光業は、新型コロナウイルス感染症の影響により、大きな打撃を受けている。

高松城址公園資料館の拠点整備や、観光政策として実施する、高松城址の観光資源としてモデルコースの商品化や VR 事業等で高松城址公園周辺への観光客を増加させ、さらに、モデルコースとして商品化を行っている周辺観光等(合計 5 コース設定予定)も、特設 WEB ページでの発信等を通じて、広域観光の促進に繋げることで、圏域全体の観光業の回復を図り、地域の雇用や地域経済活性化を図ることが出来る。

【健康増進政策との連携】

○高松城址公園近隣には、「吉備路サイクリングロード」があり、気軽

にレンタサイクルを借りることができる。新型コロナウイルス感染症予防の観点からも人気を集めている自転車を、観光施設をめぐる移動手段として活用できるよう、高松城址資料館に「吉備路サイクリングマップ」等設置することで、健康増進も図ることができる。

【教育政策との連携】

○小学校等の校外学習の場として活用し、歴史的資料や解説動画を資料館で実際に見ることで、教育的な効果も図ることが出来る。

⑤ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4－2の【数値目標】に同じ。

⑥ 評価の方法、時期及び体制

【検証時期】

毎年度 8月

【検証方法】

外部組織による検証として、「岡山市まち・ひと・しごと創生市民会議」による検証を行う。

【外部組織の参画者】

商工会議所、企業、病院、大学、金融機関、労働団体、マスコミ、連合町内会、NPO、市民等の代表者

【検証結果の公表の方法】

市ホームページで公表

⑦ 交付対象事業に要する経費

- ・ 法第5条第4項第1号イに関する事業【A3007】

総事業費 79,300 千円

⑧ 事業実施期間

地域再生計画の認定の日から2027年3月31日まで

⑨ その他必要な事項

特になし。

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし。

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(1) 高松城址公園水攻めVR動画活用事業

ア 事業概要

高松城の当時の姿や水攻めの様子を最新のVR技術を活用し、広く配信する。さらに、現地でしかみることが出来ないVR映像も作成し、観光客がスマートフォン等で現地に設置しているQRコードを読み取り、当時の武将の視点で当時の水攻めを体感できるようにする。

イ 事業実施主体

岡山市

ウ 事業実施期間

2022年4月1日から2027年3月31日まで

6 計画期間

地域再生計画の認定の日から2027年3月31日まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

5-2の⑥の【検証方法】及び【外部組織の参画者】に同じ。

7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

4-2に掲げる目標について、5-2の⑥の【検証時期】に7-1に掲げる評価の手法により行う。

7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

5-2の⑥の【検証結果の公表の方法】に同じ。